



# 手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

## ～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

## ～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

2004年4月、9名のメンバーで発足。

神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

2010年1月現在、川崎2、横浜5、県域11 計18名で活動中！！

## ～ '09 神通研集会報告 ～

### 「災害時に必要な手話」

FAX、メール、水、お弁当、ゴミ、毛布、オムツ、ミルク、探す、連絡、トイレ、受付、掲示場所、病院、怪我、病気、発熱、痛い、薬、おなががすいた、のどが渴いた、助けて、危ない、火事、崩壊（倒壊）

### 「横須賀市手サ連主催防災講演会参加者報告」

新潟県聴協 会長を迎えての震災体験講演会。被災の少ない地域の人が集まり対策本部を立ち上げ、聴協 会員名簿に基づいて安否の確認を行ったり、行政と交渉をした。非会員への対応は難しい。

### 「横浜市港北区の取り組み」

港北区聴協、サークルは、「横浜市災害ボランティア連絡会」に登録。災ボラ主催で、地域の障害当事者団体の方たちとの理解を深めることを目的に、防災訓練にいっしょに参加する企画を行った。当初、不安を抱えた人たちもいたが、いろいろな地域団体と結びつくことができた。港北区の中で昨年2ヶ所、今年は3ヶ所で行った。今後は、自分の地域の防災訓練に参加できるようになればよいと思う。

参加することで、障害を理解してもらうことが1歩だと思う。

## ～ 定例会 '10/1/31(日) ～

1/17は、阪神・淡路大震災が発生した日ですね。多くの尊い命が失われたことを忘れずに・・・そして、この大切な教訓を生かしていきましょう。

災害時発生直後は、通訳の協力は得られないものとの認識が必要です。また、各所で道路の寸断が予想されるときに、地域の地理に詳しいサークル会員の役割は大切です。日頃から地域情報の受発信を心掛けていきたいですね。

### 【次回定例会】

'10/2/28(日) 11:10～13:00  
県民サポートセンター 603

## ～サークル研究班メンバーのささやき～

ある会場。ある人物が紹介された。

ワ～大歓声。小泉進次郎国会議員だ。次の人物紹介。

ちょっと心配・・・でも、ワ～大歓声。横糸勝仁国会議員だ。歓声は五分五分。

“ホッ”良かった。人気者の二人だ。お国をよくしてよ、がんばれ。

ペンネーム ポチたま